

令和4年度第1回春日井市観光・にぎわい創出推進会議議事録

1 開催日時 令和4年7月15日(金) 午前10時00分～正午

2 開催場所 春日井市役所南館4階 第3委員会室

3 出席者

【会長】名古屋国際工科専門職大学工科学部 教授 佐藤 久美

【副会長】中部大学経営情報学部経営情報学科 教授 趙 偉

【委員】中部圏インバウンドセールスプロジェクト 事務局長 赤崎 真紀子

名鉄観光サービス株式会社商品事業本部商品開発部 副部長 福井 佳代

株式会社新東通信クリエイティブ本部 プロモーションプランナー

水野 香代

春日井商工会議所 副会頭

岡部 清次郎

一般社団法人春日井市観光コンベンション協会 会長

水野 隆

公募委員

水谷 忠成

公募委員

田本 雅子

【オブザーバー】

愛知県観光コンベンション局 観光振興課長

水上 俊貴

一般社団法人愛知県観光協会 専務理事兼事務局長

榊原 仁

【事務局】産業部 部長

森本 邦博

経済振興課 課長

金子 幸治

課長補佐

鈴木 公博

主査

柴田 知宏

主事

渡邊 優気

【計画策定支援業務受託事業者】

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 (MURC)

政策研究事業本部名古屋本部研究開発部 上席主任研究員

田中 三文

主任研究員

小森 清志

研究員

吉田 夏稀

【傍聴人】 3名

4 議題

- (1) 春日井市観光によるにぎわい創出基本計画（中間案）について

5 会議資料

次第・委員一覧・座席表

資料1 春日井市観光によるにぎわい創出基本計画（中間案）

資料2 アクションプランに対する委員意見

資料3 計画策定までのスケジュール

6 議事内容

議事に先立ち、市長挨拶、配布資料の確認等を行った。

(1) 春日井市観光によるにぎわい創出基本計画（中間案）について

【事務局金子】 (資料1～3に基づき説明)

(2) 意見交換

【水野(隆)委員】

骨子よりもトーンダウンした印象なので、ワクワクするようなポジティブな内容になると良い。若い人が担い手になっていく必要があり、若い人が活躍できるようなワクワクする書きぶりとする必要がある。

目的に人口減少対策とあるが、人口減少対策のために観光を推進するのではない。

期待する効果のイメージについて、「にぎわい」という言葉が邪魔をしている。

アクションプランについて、市内の施設には、使う側、訪れる側の自由度が制限されているものが多い。施設利用時の自由度を高め、計画ではその自由な使い方が想像できる表現が望ましい。

【佐藤会長】

若い人の新しいアイデアを取り入れていくため、若い人が観光に関わりたいと思えるような文言があると良い。

【田本委員】

20代だけではなく30代～40代も若い世代ととらえると、大学で市外に出たが子育てで春日井市に戻ってきて、暮らしやすさを感じている人は多いと思う。

高蔵寺まちづくり株式会社など、各地域でにぎわいづくりやまちづくりに取り組んでいる方が多くいるが、そのことが知られていない。積極的に情報発信して、そのような団体や人材を繋げられると良い。

【赤崎委員】

目的や現状分析のとおり、春日井市民は春日井市を観光のまちだと思っていないが、一方で、暮らしやすいという意識は高い。市内の公園が暮らしやすさを後押ししていると思う。そのような地域資源が概ね網羅されており良い。

「新しい観光の姿」にワクワクできる具体的な記載がないことが問題である。春日井市が推す「観光」の代表的なものをいくつか明示してはどうか。

プレーヤーはあくまで住民や事業者で、市はその活動をサポートするという役割分担が必要。

市でもサボテンのPRをされているが、見るだけではなく食べられ

るということも伝えて欲しい。

【水谷委員】

現状のまとめと方向性の中で、「春日井市は観光のまちではないので新しい「観光」を定義づける必要がある」との記載があるが、「春日井市は観光のまちではない」という印象が強い。あえて強調する必要はないため、もう少し表現を変えて前向きな記載になると良い。身近な観光の発見が生まれると良い。

【佐藤会長】

市民が観光を自分事としてとらえられると良い。市民にとっては当たり前なことを、どう盛り上げていくかを記載すると良い。

【福井委員】

市民にとって、これまで公園は暮らしの一部であったが、それが観光になると非日常になる。公園を観光施設に変えるのではなく、公園で何をするかという観点で観光資源に昇華する必要がある。

【佐藤会長】

コロナ禍で公園がこれまで以上に注目されており、公園での活動は期待できる。

【赤崎委員】

市民にとっては公園に行くことは観光ではない。「市民による市内観光」などの表現で、自分たちの暮らしの中にも観光が根付いていることを認識してもらうのはどうか。

【岡部委員】

「おもてなし人材の発掘」とあるが、「おもてなし人材」と言われると観光客の面倒を見なければいけないイメージがあり、ハードルが高い。おもてなし人材に限らず人材育成・発掘に力を入れるべきだ。まずは人を見つけるところから始めるべきである。

【佐藤会長】

それぞれの団体が人材を知ってはいると思うので、それらの人材の情報を集めたデータベースがあると良い。

【水野(香)委員】

近隣市町村の方に春日井市に観光のイメージを持ってもらえるような活動をすると良い。市外の人が春日井に観光のイメージを持って初めて市民が観光地だと認識をすると思うので、大学との連携や、会議に市外の人に参加してもらうことも手法のひとつである。

【趙副会長】

計画には学生の提案も入っており、様々なアイデアが入っている。しかし、基本計画としてまとめた時に、大きな視点からの書き方が多くなってしまうため、ワクワク感が見えづらくなっているのは仕方ないこと。アクションプランを実行した結果、ワクワクすればよいのではないか。

【佐藤会長】

総花的になるのは避けられないが、若い人たちの自分たちの活動の場があると良い。

サブタイトルで「一緒に何かをしましょう」と呼びかけられると良い。

都市間競争を意識して、取組を実施する必要もある。

【水上オブザーバー】

愛知県でも観光県を目指す取組をしている。ジブリパークの開園を控え、県内外から愛知県の観光の盛り上げが進んでいる。ひとつひとつの地道な取組の積み上げが結果に繋がると思う。

観光まちづくりゼミ（モニターツアー）という取組を行っている。自分たちのまちの魅力を再発見できる機会となっている。春日井市は観光のイメージが弱いかもしれないが、まずは地元の魅力を知って、誇りを持つことが必要である。

【榊原オブザーバー】

計画であるため、固いのは仕方ない。

計画策定の目的が、人口減少や経済の流出に対してであるのはやはり違和感がある。春日井の観光の現状は記載してあるが、近隣市町村や全国の比較も入れるべき。合わせて、近年のトピックとして、SDGsの取組をどこかに入れておくとより有意義なものになるのではないか。

また、春日井市の観光は市民だけを対象とするのか。ジブリパークの開業も控えており、外からの人を引き込むことも念頭においてはどうか。外から引き込むためには、随所に記載されている「おもてなし」は必要であるが、愛知県では「あないびと」という言葉を使っているため、参考にしてはどうか。

さらに、先に出ていたワクワク感を出すために、若い人の力を活用するのは良いが、20代だけではなく30代以上もイメージすると良い。

アクションプランについて、実施主体のほとんどが市になっている。市だけではなく様々な団体が主体となっていくことがイメージできる記載になると良い。

また、春日井市内には道の駅がない。あい農パークと紐づけると面白いのではないか。刈谷ハイウェイオアシスなども参考になる。

【水野(隆)委員】

多治見市は「本物の町」といってPRしており、近隣市町村をマーケットとしてとらえて観光に取り組んでいる。まちなか観光にも取り組んでおり、春日井市の観光計画策定においても参考になるのではないか。例えば、春日井市には、多治見市にはない企業の多様性があるため活かしていけると良い。

そのうえで、春日井市の人口30万人という規模は、まちづくりを進める上では大きい印象である。まちづくりは10万人程度の規模が適していると思う。そう考えると、特徴の異なる高蔵寺エリア、勝川エリア、春日井市駅周辺エリアの3つ程度に分けて特徴づけて、まち

づくりが進められると良いのではないか。

【佐藤会長】 市長の思いやメッセージが計画の冒頭にあると良い。

【榊原オブザーバー】 エリア分けについて賛同する。

【田本委員】 エリア分けについては共感する。高蔵寺で活動されている建築家団体も市内全域で同じようには活動できないとおっしゃっている。

イーアス春日井の中央広場では様々な活動ができる場となっており、そのような拠点がある他にもあると良い。

【佐藤会長】 エリア分けについて、計画内に具体的に書くのは難しいかもしれないが、エリア分けをして取り組んでいくという方針は書いても良い。

計画内に地図が入っていないため地図があると分かりやすい。

【事務局森本】 市民が主役ということについては市長の考えとも合っており、書き込む必要があると感じた。

この計画を始めとして、今後発展させていく必要があるので、そういった含みを書いていきたい。

地図については追記する。

【水野(隆)委員】 SDGs もいろいろある。多文化共生という観点はどうか。

【佐藤会長】 やさしいまちづくりが重要で、観光でも多文化共生の視点は重要。

【岡部委員】 他地域との連携は難しいところがある。これまで、犬山市から観光客を引き込めないかなど、近隣市町村と連携したことがあるが実現しなかった。方法を検討してうまく連携できると良い。

【赤崎委員】 地図を掲載するのであれば、市境を超えて連携することを表現できると良い。

【福井委員】 広域連携が重要で、周辺市町村と一緒に春日井市を周遊してもらえらる仕掛けが作れると良い。

【水野(香)委員】 前回の委員会でも話に出たが、キャッチコピーを公募するなど、市民参加のきっかけを作っていけると良い。

【水上オブザーバー】 プラス思考の目的を持って進めていただけると良い。

【榊原オブザーバー】 目的がプラス思考になると印象がかなり変わらると思う。総合計画のエリア分けも参考になる。稲沢市のまちづくりラボも参考になる。

【水谷委員】 広域連携は行政が主導して近隣市町村に働きかける必要がある。

【趙副会長】 春日井市の行きたい場所が思い浮かばないので、場を作ることを意識して計画を作してほしい。

【事務局金子】 行政の計画という枠組みがあり、当市においては全く取り組んでいなかった観光に初めて取り組むタイミングである。タイトルやキャッチコピーについては議会にも説明をするスケジュールから、市民公募

は難しい。副題は付けたいと思う。

今後は、本日のご意見を受けて修正し、委員の皆さまにメールなど
でご報告する。

【佐藤会長】

副題については委員の宿題として、案を提出いただくこととする。
その中から決めたいと思う。

目的については、書き方を変えると良い。

市長からのメッセージと地図は是非追加して欲しい。

上記のとおり、令和4年度第1回春日井市観光・にぎわい創出推進会議の議事の経過及びその
結果を明確にするためにこの議事録を作成し、会長及び出席委員のうち1名が署名する。

令和4年8月15日

会 長 佐藤 久美

署名人 趙 偉